

## 診療内容

**内科 消化器内科** 消化器疾患(消化管・肝臓・胆のう・膵臓)の診断と治療、生活習慣病(糖尿病・高血圧・高脂血症など)の指導治療、胃・大腸内視鏡検査、内視鏡治療(ポリープ切除、粘膜切除、十二指腸乳頭切開、胆道ドレナージ)、各種がん検診など

**循環器内科** 高血圧、不整脈、高脂血症、動脈硬化、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症、心不全)など

**外科 消化器外科** 消化器疾患の手術治療(腹腔鏡手術)および化学療法、そけいヘルニア手術、乳腺・甲状腺疾患の診断と治療、胃・大腸内視鏡検査、内視鏡治療など

**整形外科** 頸椎・腰椎手術、人工関節手術、靭帯再建術、肩・膝内視鏡下手術、骨折・脱臼手術、外反母趾手術、軟部腫瘍切除術、神経ブロック、スポーツ整形外科、骨粗しょう症の検査・治療、内視鏡下椎間板ヘルニア手術

**肛門外科** 痔核、裂肛、痔瘻、肛門周囲膿瘍、肛門搔痒症など肛門疾患の診断と治療

**リハビリ科** 整形外科各疾患、症状に応じた運動療法、機能訓練などの理学療法、各種治療器を使用した物理療法(干渉波、SSP、低周波治療、ホットパックなどの温熱療法、頸椎、腰椎牽引療法)など

**麻酔科・ペインクリニック** 各種痛みを伴う疾患(帯状疱疹痛、三叉神経痛、肩膊痛、腰痛、膝痛、下肢痛、癌性疼痛など)、痛みを伴わない疾患(顔面神経麻痺など)に対する診断と治療(各種神経ブロック薬物療法など)、手術に伴う臨床麻酔

**診療科目** 内科、消化器内科、循環器内科、外科、消化器外科、内視鏡外科、整形外科、肛門外科、リハビリテーション科、麻酔科・ペインクリニック(近藤正一)

**病床数** 99床(個室21床、特別室6床)

**施設設備** 手術室、超音波検査室、心電図検査室、電子内視鏡室、臨床検査室、診療放射線設備(CR・CT・MRI・一般X線)、骨塩定量装置 他

**建物概要** 鉄筋コンクリート造り 4階建て  
建築面積/1,787平方メートル  
延建物面積/4,981平方メートル  
敷地面積/4,786平方メートル  
敷地内駐車場/1,005平方メートル

**職員数** 137名…医師15名(非常勤3名)、看護師66名、看護助手15名、薬剤師5名、診療放射線技師5名、臨床検査技師2名、管理栄養士1名、理学療法士11名、柔道整復師1名、鍼灸師1名、社会福祉士1名、診療情報管理士4名、医事課・事務職員など12名

**施設認定** 日本整形外科学会研修施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本外科学会関連施設、救急指定病院、労災指定病院、看護学校実習施設

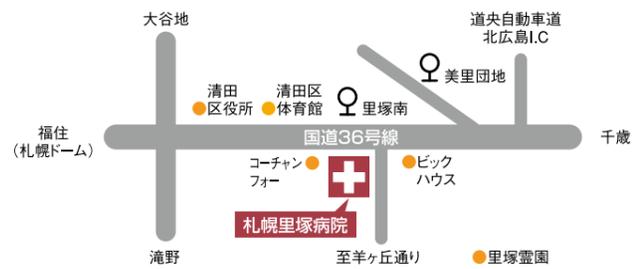
**個室案内** シャワーユニット、ウォシュレットトイレ、テレビ(カード式)、空調システム(冷暖房)、冷蔵庫、電話、ロッカー(個室使用料については事務受付にお問い合わせ下さい)

### 診療受付時間

平日 9:00~12:00 / 13:30~17:00  
土曜 9:00~12:00  
休診 日曜・祝祭日

### 面会時間

平日 15:00~20:00  
土曜 13:00~20:00  
日祝日 10:00~20:00



主な交通機関 ▶ 美里団地(バス停から徒歩5分) 里塚南(バス停前)  
お問い合わせ先 ▶ 中央バス 大曲営業所 TEL011-376-2424

救急病院指定・労災病院指定



社会医療法人 蘭友会

**札幌里塚病院**

理事長 近藤 正一 病院長 鴫田 文男

予約診療  
敷地内禁煙  
実施中

# こんにちは

2018 夏号 VOL.97

当院の  
理念

「一日一触」

患者さまとの温かなこころの  
ふれあいを大切にします。

基本  
方針

安全で安心できる医療を、十分な説明と患者さまの同意のもとに、もてなしの気持ちをもって提供していきたいと考えています。患者さまを頂点として、紹介する医療施設のトライアングルの良好な関係を築いていきたいと思ひます。

## 腹腔鏡手術とはどんな手術?

副院長 小林 裕明

## 新任医師の紹介

整形外科科長 平野 章

麻酔科・ペインクリニック科長 高平 陽子

## わたしたち3階病棟です

3階病棟 師長 古川 美香子

## ふらり島根

外来看護師 古田 志子

## 医療安全への取り組み

安全管理委員会 看護部長 木村 辰巳

社会医療法人 蘭友会

**札幌里塚病院**

# 腹腔鏡手術とはどんな手術？

副院長 小林 裕明

腹腔とは、おなかの中の胃や腸などがある空間のことで、腹腔鏡はその空間をみるカメラのことです。腹腔鏡手術とは、おなかを数か所1cm位切開し、ポートを入れ、そこからカメラや手術の道具を挿入し、テレビモニターを見ながら行う手術です。普段はへこんでいる腹腔に炭酸ガスを入れて膨らませて手術を行います。腹腔鏡手術は、約20年程前の胆嚢を取る手術に始まり、今では一般的に行われるようになりました。手術道具も日々進歩しています。約10年位前から胃や大腸も腹腔鏡手術で取る様になり、ここ数年でかなり普及してきました。当院でも腹腔鏡手術で大腸・直腸の切除を行う様になり10年が経ちました。

## 腹腔鏡手術の良いところは？

### ①創が小さい

傷が小さい分、痛みも軽く済むので、術後早期に体を動かすことができます。美容上、傷が小さいと見た目がきれいで、あまり目立ちません。

### ②細かいところが良く見える

カメラを使うので、開腹手術では見えなかった部分まで良く見えるため、より確実な血管の処理などができます。その為、出血量がとても少なく手術を終えることができます。特に直腸癌の手術などの骨盤の奥深い部分の操作には最適です。

## 本当に安全なの？

### そんなにいいことづくしのの？

#### ①手術時に体にかかる負担は大きいです。

長時間、頭を低くする体位をとったり、炭酸ガスを入れておなかを膨らませることにより心臓や肺により負担がかかります。術前に心機能や呼吸機能を検査して、心肺機能が落ちている方では、できないこともあります。

#### ②開腹手術より時間がかかります。

術前に体位を固定する時間がかかります。又、直接臓器に触れないため、一場面ごとに鉗子を持ち直して術野を展開する必要があり、その分手術時間が少し長くなります。

#### ③ときに開腹手術が必要になります。

腹腔内にひどい癒着や炎症があるときや、出血したときは開腹に移行して手術を続けなければならないことがあります。本来十分な開腹手術の経験を積んだDrが腹腔鏡手術を行うことが望ましいです。

腹腔鏡手術は開腹手術に比べて、手術時間は多少長くかかりますが、出血量が少なく、術後の回復も早く、癌の治療成績としても遜色のない結果が出ています。

札幌里塚病院では、腹腔鏡手術も、従来の開腹手術のいずれも高い知識・技術レベルを維持するよう日々努力しております。ご自身は勿論、ご家族やご親戚・ご友人が手術が必要と言われた際はどうぞお気軽にご相談ください。

# 新任医師の紹介

## 整形外科科長 平野 章



この度4月より着任いたしました平野章と申します。札幌医科大学整形外科在籍中は北海道内の北は紋別、南は室蘭、東は釧路と様々な病院で働かせていただきました。専門は脊椎疾患ですが、これまでその他の様々な疾患や外傷治療もさせていただいております。

地域の皆様のために、なるべくわかりやすく説明させていただき、個々の患者様にあった治療を選択し、皆様のお役に立てるように頑張りたいと存じます。

腰痛・下肢痺れ・痛みなどによる歩行障害が見られる腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニア、また上肢の痺れ・箸や書字などの細かいことができなくなるなどの頸髄症、そのような症状が見られる方は一度ご相談ください。

これからどうぞよろしくお願い致します。

[卒業年/出身大学]  
2003年  
札幌医科大学医学部卒

[専門分野]  
整形外科全般、  
脊椎外科

[所属学会]  
日本整形外科学会・日本脊椎病学会・  
北海道整形災害外科学会・日本腰痛学会・  
日本脊椎インストゥルメンテーション学会

[認定/専門医]  
日本整形外科学会整形外科専門医・  
日本整形外科認定脊椎病疾患・  
日本脊椎病学会認定  
脊椎外科指導医

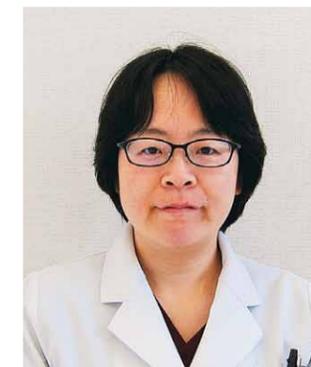
## 麻酔科・ ペインクリニック科長 高平 陽子

初めまして。

4月から麻酔科常勤医として働いております高平と申します。私は弘前大学麻酔科出身で、2年前に札幌医科大学麻酔科に入局し、今回札幌里塚病院のご厚意でこちらにお世話になることになりました。

診療の際についつい津軽弁(+秋田弁)が出てしましますが、わからない言葉は聞き直していただければと思います。

今までの病院で指導していただき培ってきた知識・技術をさらに発展させ、地域の皆様のお役に立つよう尽力するつもりです。よろしくお願い致します。



[卒業年/出身大学]  
1998年 弘前大学医学部卒

[専門分野]  
手術麻酔、ペインクリニック

[所属学会]  
日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会

[認定/専門医]  
日本麻酔科学会専門医

# わたしたち 3階病棟 です。

3階病棟 師長 古川 美香子

**正面** 玄関から外来部門を横目にまっすぐ進むと、右手にエレベーターがあります。

目の前の売店には立ち寄らず真っすぐ3階までお上がりください。扉があいたその先は、私たちの勤務場所である3階病棟のフロアです。

急性期ベッド数50床、包括ケア病床8床の計58床を有し、内科、消化器内科、整形外科の患者さんが入院されています。

内科は肺炎や糖尿病、消化器系疾患が多く、整形外科は骨折全般(特に大腿骨頭部骨折や四肢の骨折)また腰椎疾患や肩腱板断裂の方などが多く入院されています。

**看護** 職員は、看護師・准看護師・パート看護師・看護補助者など総勢35名の構成で、日々患者さんの看護にあたっています。平均年齢は45歳くらい。ピチピチはしていないけど、見た目より若く安定感と優しさを売りにしています。勤務体制は2交代(一部3交代)勤務で、育児中の看護師は夜勤をせずに働くこともでき、家庭と仕事を両立している職員もたくさんいます。

看護体制はプライマリナース(入院から退院まで同じ看護師が担当)で患者さんとの信頼関係を大切にしています。そんな私たちの職場を8歳、6歳、4歳と3人の子供さんがいるママさん看護師の一日を追いながら、ご紹介します。

## 《ママさん看護師の一日》

6:00 起床。子供たちも起こします。



6:30 朝ごはん。



7:00 学校と保育園への身支度。

7:30 上の子二人を学校に送り出し、下の子を保育園に送るため車で出発。

7:50 保育園到着。



8:00 病院到着。白衣に着替えて3階病棟へ。おはようございます。夜勤者にお疲れ様の挨拶。1日のスタート!

8:30 みんなで始業の挨拶。受け持ち患者さんのカルテを読んで夜間帯の状態を確認します。

9:00 点滴の準備。お部屋廻りの準備。患者さんのお部屋へ。

検温をして患者さんの状態観察後、入浴できない患者さんの体を拭きます。

助手さんは患者さんのベッド周囲のお掃除をして回ります。

整形で入院中の患者さんの回診を介助。患部の観察をして看護記録に残します。医師の指示も確認します。

医師に患者さんの状態を報告して指示をもらいます。

ナースコール(メロディーはエリーゼのために)「どうされましたか?すぐ伺います」その日の勤務者全員コール対応します。

11:30 昼食前の血糖測定や食後薬の準備・確認。20席程あるダイニングで助手さんがテーブルを拭いて昼食の準備をしています。

12:00 歩けない患者さんはお部屋へ配膳します。自分で食べられない患者さんへは食事介助をすることも。飲み込みの状態や食欲などを観察します。

12:30 今日は遅あがり1時間のお昼休憩。持参のお弁当を食べながらスタッフと談笑。

受け持ちの患者さんを他のスタッフに依頼して休憩します。

13:30 午後からの仕事開始です。

14:00 患者さんのお部屋廻り。検温も行います。患者さんの状態や行った看護を記録に残します。パソコンを使う作業もたくさんあります。

15:00 カンファレンス。日勤のスタッフと受け持ち患者さんの状態を話し合い情報交換します。看護計画を立案したり修正したりして、患者さんに良い看護が提供されたのか評価も行います。

16:00 そろそろ夜勤者が出勤してくる時間です。受け持ち患者さんのお部屋を廻り、夜勤者に引き継ぐ準備をします。

17:30 業務終了。お先に失礼します。

18:00 スーパーに寄ってお買い物を済ませて保育園にお迎え。

18:30 学童保育にお迎え。

19:00 帰宅。急いで晩ごはんの支度をします。子供たちから小学校や保育園での出来事を聞きながら楽しく晩ごはんを食べます。その後、お風呂に入れます。

21:00 子供たちを寝かせつけます。そのあとに、洗濯&明日の準備。仕事の調べ物やお勉強をしたり...

24:00  
|  
01:00 私もやっと就寝です。

いかがでしたか? ご紹介したのはほんの一例です。

この様にすべて時間通りには行かないこともありますが、わたしたち看護師は、急性期の治療を受ける患者さんの持っている力を生かしながら入院生活を支え、早い回復を願い看護しています。

退院される時の患者さんの笑顔や励ましのお言葉をいただいた時のうれしさをモチベーションにこの地域の皆さんに支持され愛される病院として、日々努力してまいります。

えいえいおー!





# ふらり島根

外来 看護師 古田 志子

私自身は生まれも育ちも北海道ですが、今回は両親が生まれ育ったちょっと地味だけど魅力がいっぱいある島根県についてご紹介したいと思います。

島根と言えば、鳥取に間違われやすかったり、北海道では「場所がピンと来ない」「目立たない県だ」と感じている方が多いと思います。

ですが、2007年7月に島根県大田市大森町とその周辺の石見銀山(いわみぎんざん)遺跡が「石見銀山とその文化的景観」としてユネスコの世界遺産に認定されました。

石見銀山は、1626年から1923年の400年もの間、銀の採掘がなされ日本の発展を支える重要な役割を果たしていたそうです。今や、大森町は世界が認めた注目されるべき町となりました。

実は、この世界遺産に登録された大森町の町並みの中に父の生家があります。その家には、子供の頃に何度か泊まって、横に流れている川に入って遊んだり、恐る恐る五右衛門風呂に入ったりしました。瓦屋根の町並みは、テレビで見た時代劇の中にある様な不思議な感覚になったことを思い出します。島根県方面に行かれる機会がありましたら、大森町まで足を運んでその感覚を味わってみて頂けたら嬉しいです。

それから、島根県出雲市にある縁結びの神様で有名な「出雲大社」も是非足を運んで頂きたい所です。出雲

大社の大注連縄(おおしめなわ)は、長さ13.5メートル・直径6メートル・重さ5トンという巨大なもので、まさに国内最大級といわれ、とても見応えがあります。しめ縄を下から見上げてみると、さらにその大きさを実感できるかと思います。出雲大社の参拝方法は全国でも珍しい「2礼4拍手1礼」です。たいていは2礼2拍手1礼で、4拍手するのは格式が高い出雲大社ならではの作法だそうです。出雲大社を参拝すると、その厳粛な雰囲気にとっても厳かな気持ちになります。

また、お勧めの景色もあります。それは、日本の夕日百選にも登録されている宍道湖(しんじこ)の夕日です。空と湖が茜色に染まる日没前が感動的です。

他にも松江城、小泉八雲記念館、足立美術館、玉造温泉とご紹介したいと思う所はたくさんあります。が、その歴史的建造物や和の雰囲気の中で、やっぱり気になるのが島根のグルメ!!本場の八雲そば、あごの焼き(細いストローで包まれた白いかまぼこ)、そして、ごま豆腐は特に私のお勧めです。最近、宍道湖ではしじみバーガーもある様で、是非私も食べてみたいなあと思っています。たくさんの歴史的建造物や美味しいグルメ、温泉など島根県には「THE 日本」がたくさんあります。そんな魅力いっぱいの島根県へ良かったら是非足を運んでみてくださいね。



《石見銀山坑道内》



《父の生家》



《宍道湖の夕日》



《大森の街並み》



《出雲大社》

# ～ 医療 安全への取り組み ～

安全管理委員会 看護部長 木村 辰巳

## 1. 医療安全管理指針

この指針は、患者さんが安心して安全な医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供することを通じて、地域社会に貢献することを目的としています。この目的を達成するため、病院長のリーダーシップのもと全職員が一丸となって、医療の安全に対する意識を高めるとともに、個人と組織の両面から事故を未然に回避しうる能力を強固なものにすることが必要である。これらの取り組みを明確なものとし、当院における医療事故防止の徹底を図り、安全で質の高い医療を提供することに努力します。

## 2. 医療安全に関する基本的な考え方

医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機管理意識」を常に持って業務に当たります。当たり前のことをきちんとする事を心がけ、業務に当たっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底します。患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんやご家族への説明はその内容を十分理解していただけるよう心がけます。診療に関する諸記録は、正確かつ丁寧に記録するとともに、その都度客観的評価をしていきます。インシデント・アクシデントについて、職員が報告しやすい環境を整備し情報の共有を図ります。

## 3. 安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項

病院長を統括責任者とし、病院長直轄の組織として安全管理委員会を設置し、安全管理対策を総合的に企画、実施するために、毎月1回定期的に開催しています。必要に応じて臨時に開催します。

## 4. 医療安全管理のための職員に対する研修に関する基本的事項

医療に関わる安全管理のための基本的な考え方及び具体的な方策について、職員に周知徹底を行うことで、職員個々の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上を図ります。病院全体に共通する安全管理に関する内容について年2回程度定期的に開催するほか、必要に応じて開催します。

## 5. 報告などに基づく医療にかかる安全確保を目的とした改善対策に関する事項

各医療現場で経験したヒヤリハットや事故の全情報を医療安全対策室に収集し、原因の分析及び改善策について医療安全対策委員会で検討を行い、その結果を各部署のセーフティマネージャーを通じて全職員に情報共有することにより事故発生の再発防止を図ります。

## 6. 医療事故発生時の対応に関する基本的事項

医療事故発生時には、医療側の過失によるか否かを問わず、患者さんに望ましくない事象が生じた場合には、まず当該部署の責任者、主治医、またはそれに代わる医師、病院長に報告するとともに可能な限りまず当院の総力を結集して、患者さんの救命と被害の拡大防止に全力を尽くします。

また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく他の医療機関の応援を求め必要なあらゆる情報、資源人材を提供します。病院長は、必要に応じて「医療事故調査委員会」に事実関係の調査等を指示し、その報告を踏まえて患者さん及びご家族等への説明などに誠意を持って対応するとともに公表にあたっては患者さん等のプライバシー保護に十分配慮した対応を致します。

## 7. 医療従事者と患者さんとの間の情報の共有に関する基本方針

この指針は患者さん等に医療の安全管理への理解と協力を得るための院内掲示や病院ホームページに掲載を行い、積極的な閲覧の推進に努めます。

## 8. 患者さんからの相談への対応に関する事項

患者さん家族からの相談窓口として、地域連携室及び医療相談室を設置しています。

## 9. その他医療安全の推進のために必要な事項

医療安全の推進のため、本指針及び下記の医療安全管理に関するマニュアルを整備して全職員への周知徹底を図ります。また本指針及びこのマニュアルの見直しを随時行います。